



SAFE COMMUNITY TOWADA



暴力・虐待予防対策部会

発表日
発表者

令和6年8月6日（火）
暴力・虐待予防対策部会
部会長 関川 景子 1

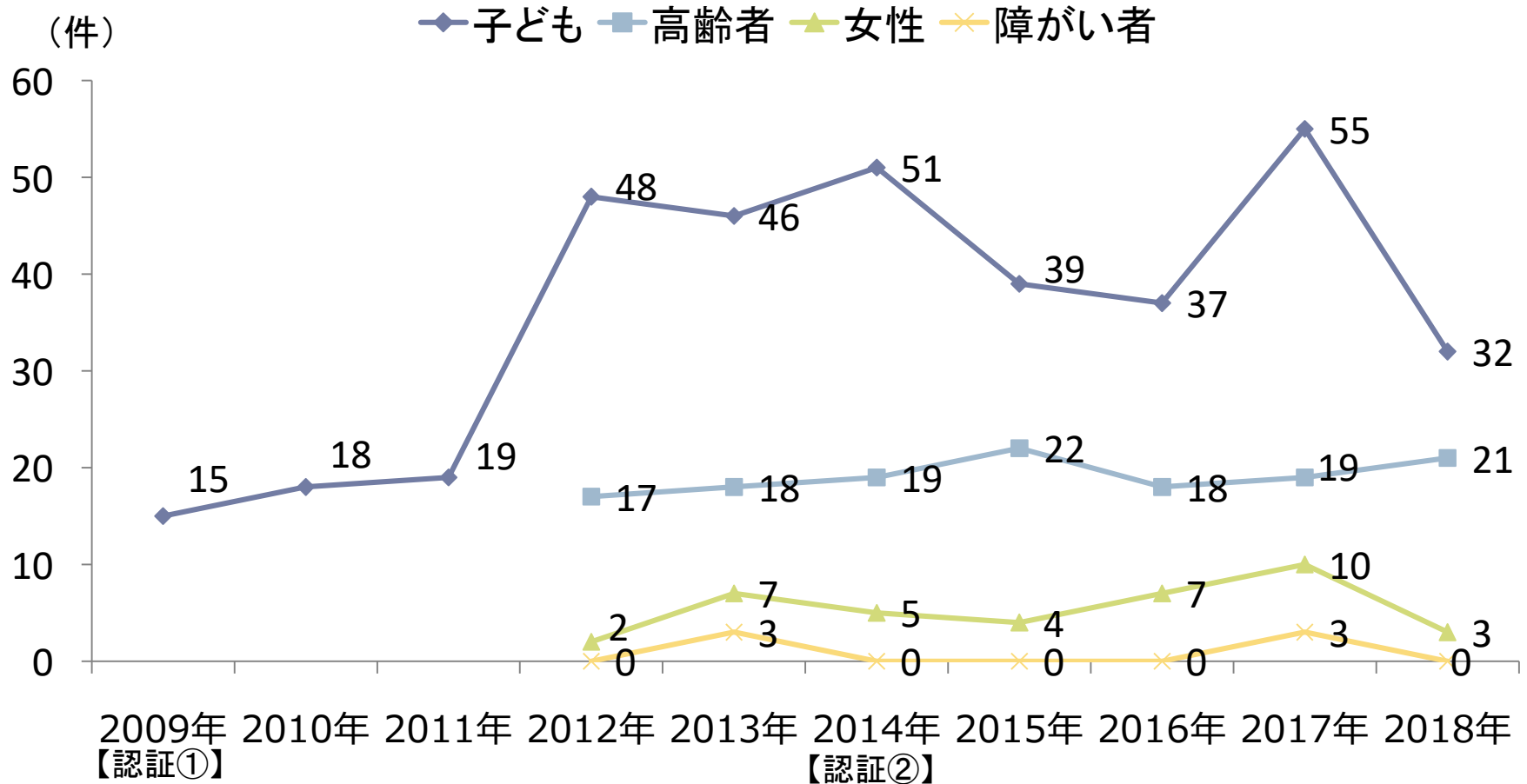
暴力・虐待予防対策部会名簿

	区分	構成
1	市民団体等	特定非営利活動法人 スマイルラボ
2		十和田人権擁護委員協議会十和田市支部
3	関係機関等	十和田地区保育研究会
4	行政関係	十和田警察署生活安全課
5		十和田市教育委員会指導課
6		十和田市生活福祉課
7		十和田市高齢介護課
8		十和田市こども家庭センター

暴力・虐待予防対策部会設置の背景①

■子どもに対する虐待の相談件数が多い

図表 1 虐待相談件数

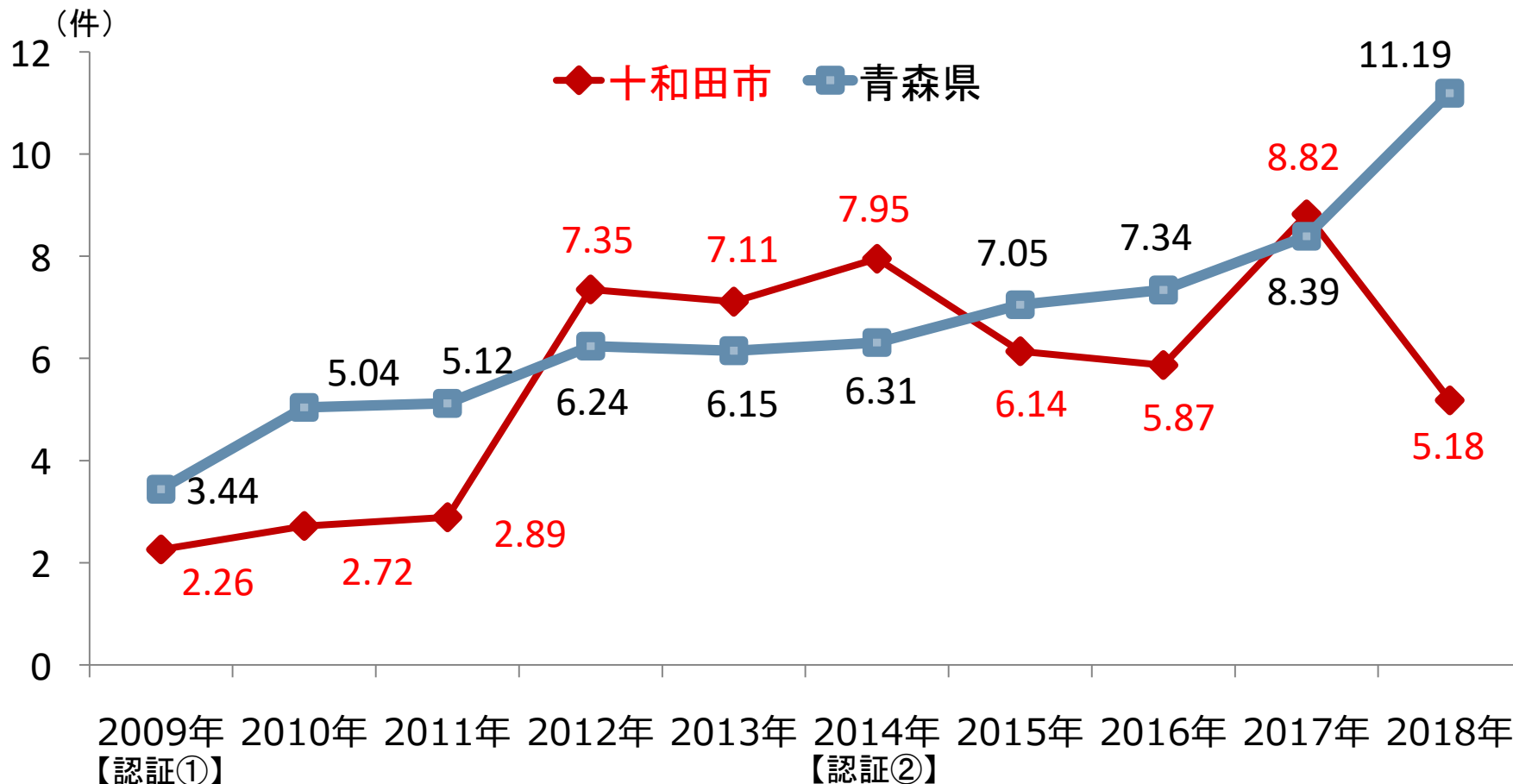


出典:こども家庭センター、高齢介護課、生活福祉課、七戸児童相談所

暴力・虐待予防対策部会設置の背景②

■子どもに対する虐待の相談件数が多い

図表 2 児童虐待相談件数（人口1万人当たり）

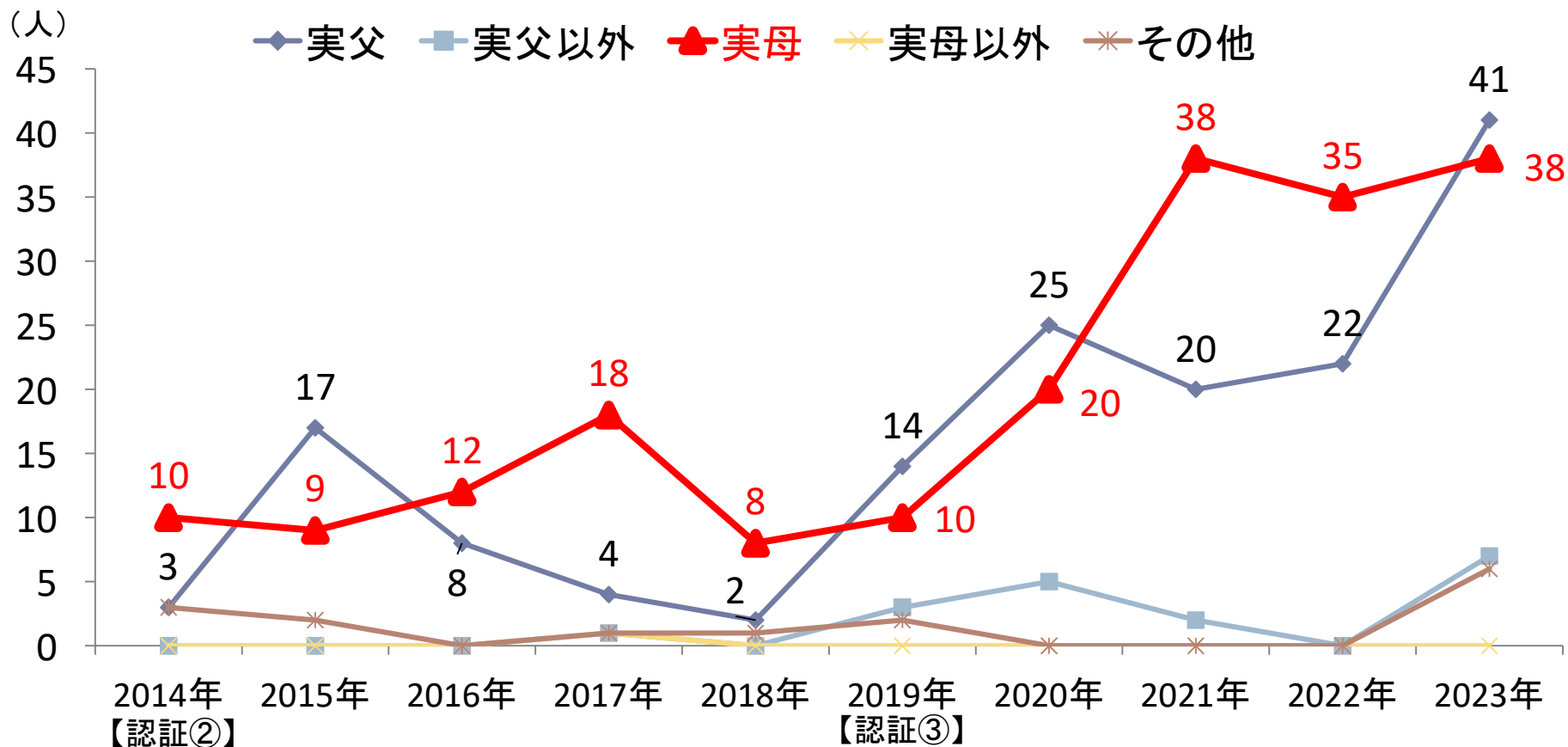


出典：厚生労働省、七戸児童相談所

データから見る課題①

■子どもに対する虐待者は実父母が多い

図表3 子どもに対する主な虐待者



データから見る課題②

■子どもに対する虐待は増加し、特に心理的虐待が多くなっている

図表4 子どもに対する虐待種別（2014年～2023年）

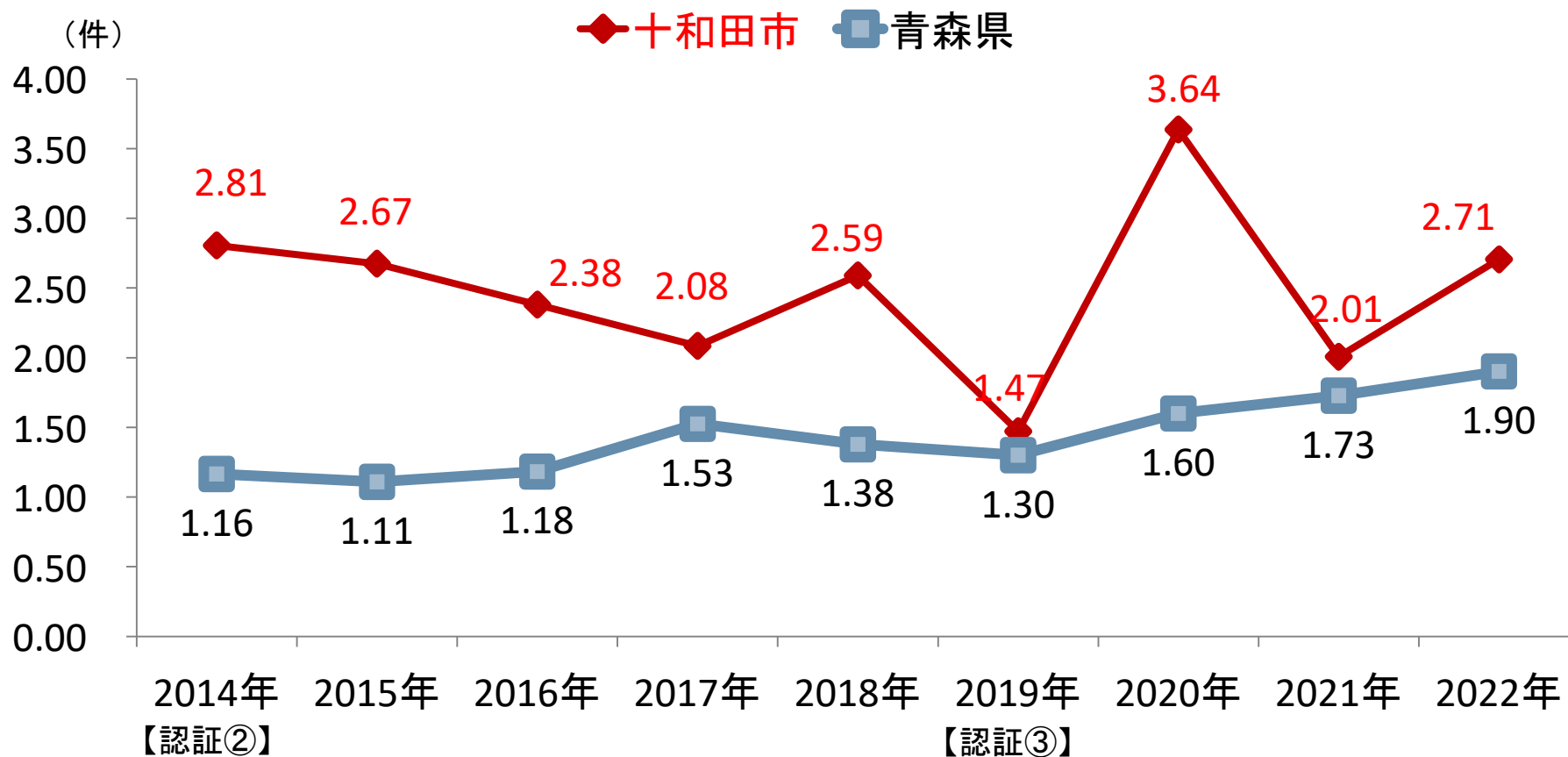
2014～2018年							2019～2023年					
種別	合計	区分					合計	区分				
		0～3歳未満	3歳～学齢前児童	小学生	中学生	高校生その他		0～3歳未満	3歳～学齢前児童	小学生	中学生	高校生その他
身体的	22人	4人	7人	8人	2人	1人	62人	10人	17人	19人	11人	5人
性的	1人			1人			2人			1人	1人	
心理的	29人	12人	6人	11人			147人	50人	32人	39人	14人	12人
ネグレクト	48人	14人	11人	16人	6人	1人	77人	8人	22人	32人	9人	6人
合計	100人	30人	24人	36人	8人	2人	288人	68人	71人	91人	35人	23人

出典：こども家庭センター「十和田市要保護児童対策協議会会議資料」

データから見る課題③

■いずれの年も、県の数値を上回っている

図表5 高齢者の虐待通報による対応件数（人口1万人当たり）

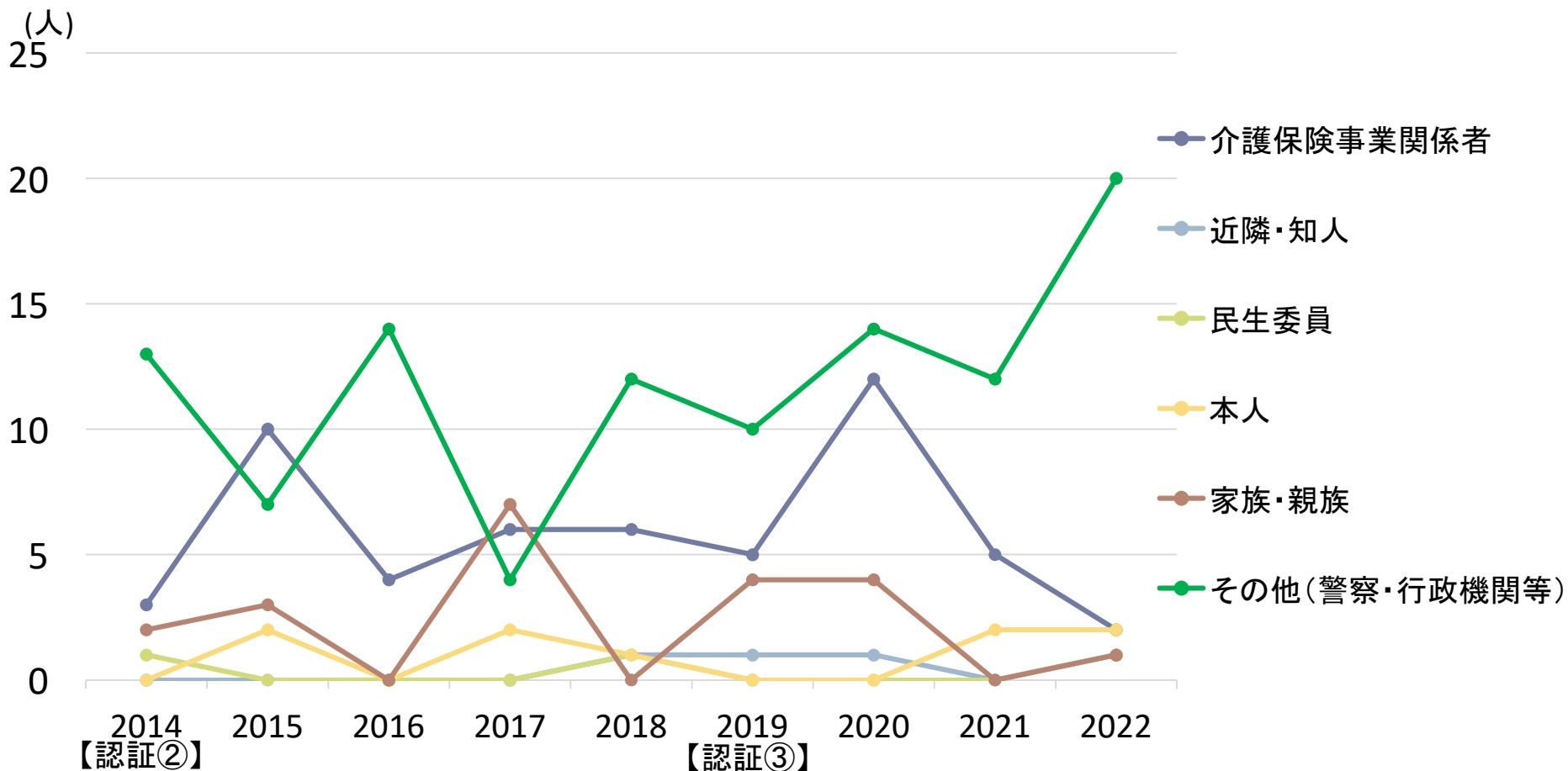


出典：高齢介護課、青森県調べ ※虐待者に重複あり

データから見る課題④

■虐待の通報者は、行政や介護保険事業関係者が多い

図表 6 高齢者の虐待通報者

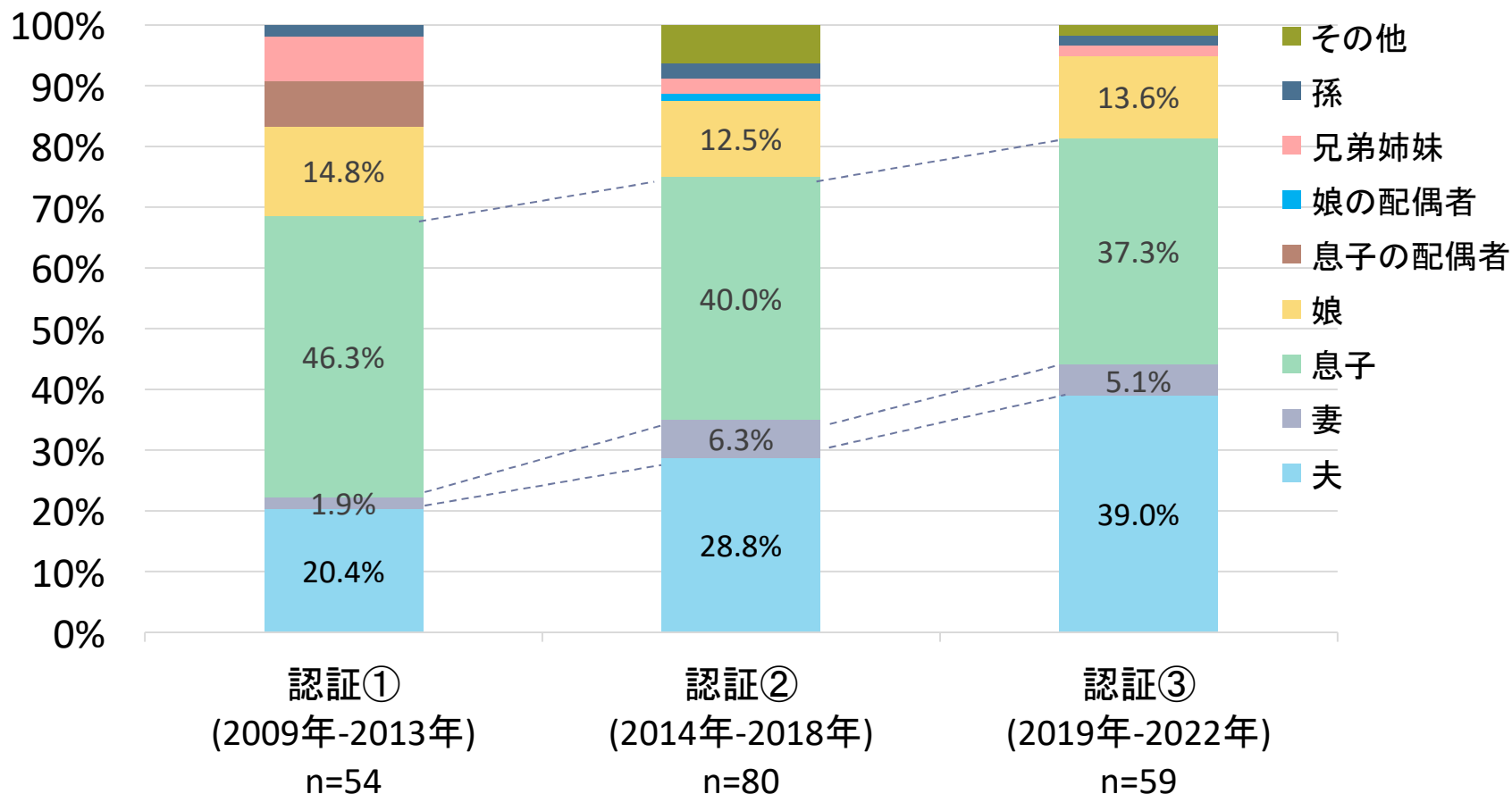


出典: 高齢介護課調べ

データから見る課題⑤

■高齢者に対する虐待者は息子、夫が多い

図表 7 高齢者に対する主な虐待者

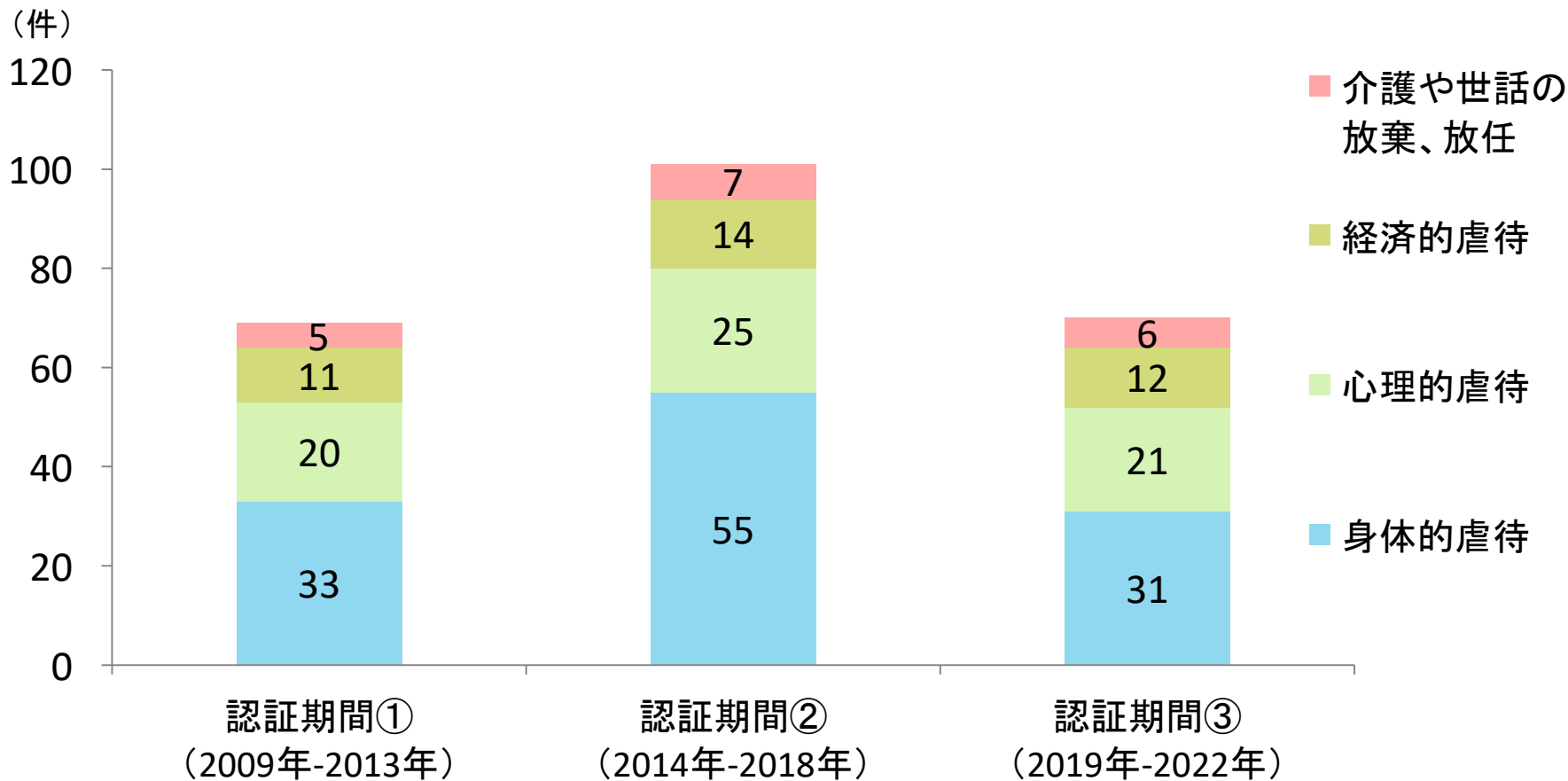


出典: 高齢介護課調べ ※虐待者に重複有

データから見る課題⑥

■高齢者に対する虐待は身体的虐待が多い

図表 8 高齢者に対する虐待種別

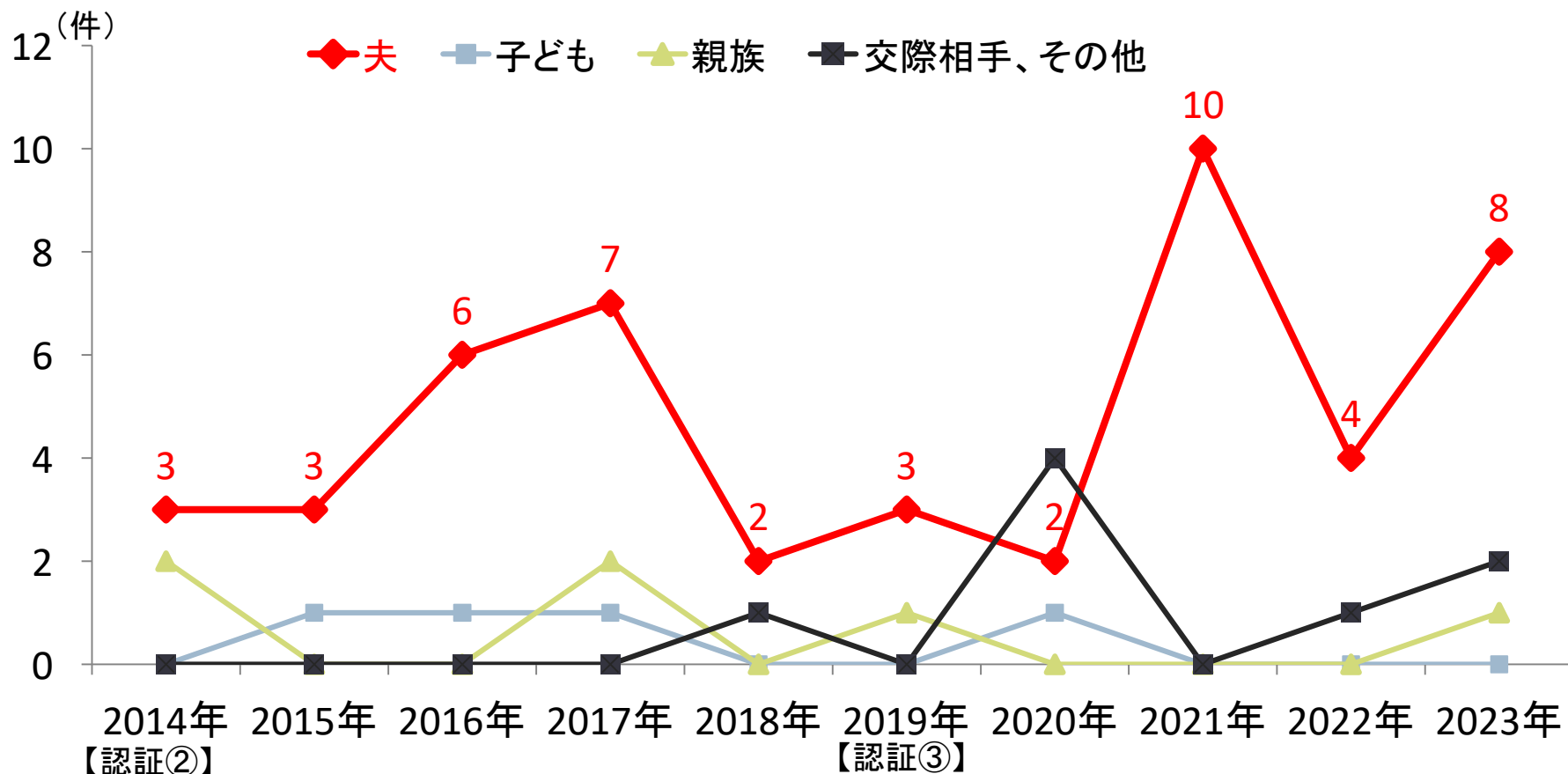


出典: 高齢介護課調べ ※虐待者に重複有

データから見る課題⑦

■女性相談では夫からの暴力に係る相談が多い

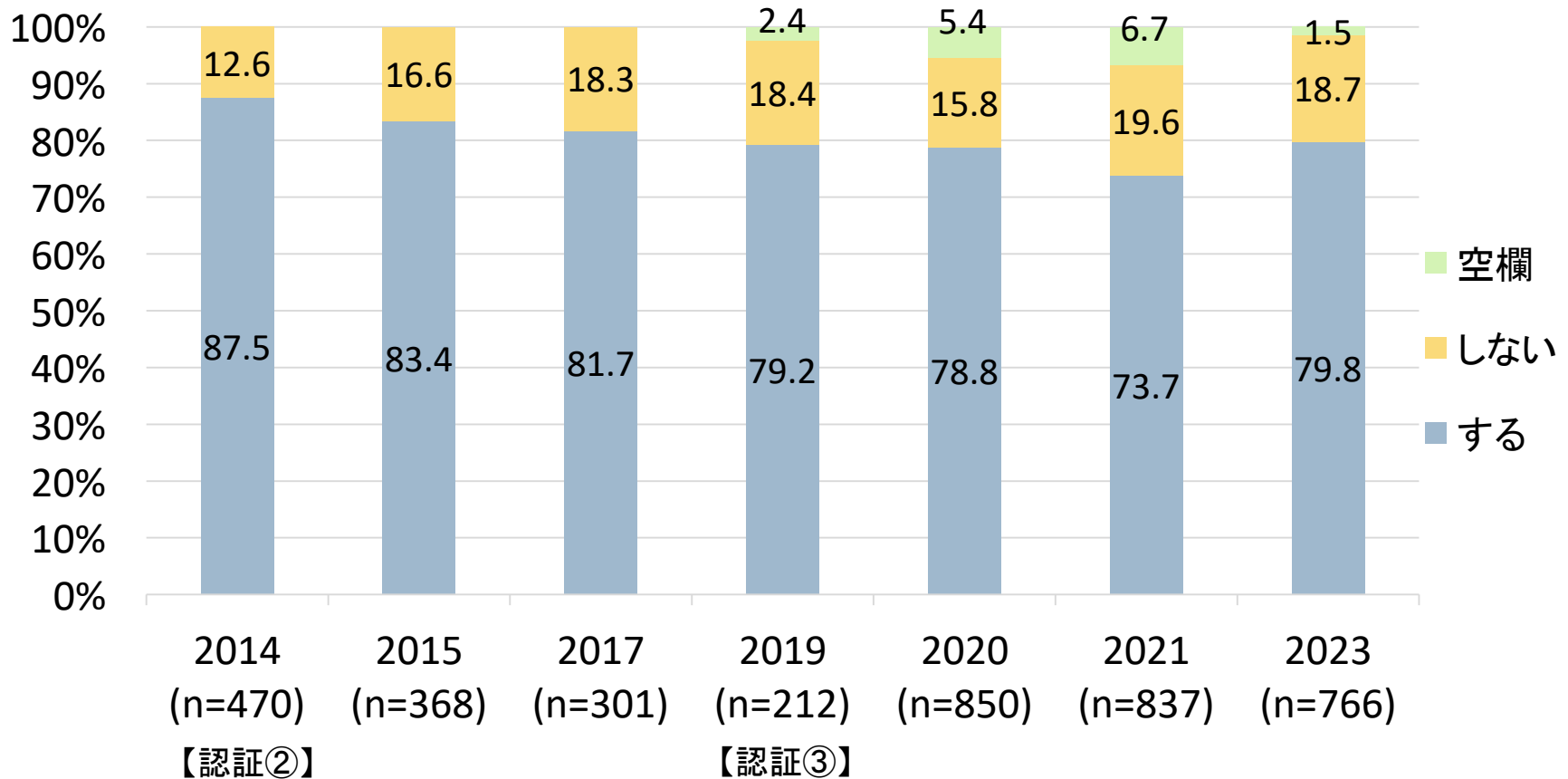
図表 9 女性相談における暴力に係る相談



データから見る課題⑧

■通報しない人の割合が年々増加傾向にある

図表10 虐待を受けたと思われる乳幼児や高齢者を発見した場合、相談または通報する人の割合



出典：十和田市安全・安心なまちづくりに関するアンケート（～2019年）、セーフコミュニティ市民アンケート（2020年～）

課題の整理と部会の取り組み

課題	対策
子どもや高齢者に対する虐待、女性に対する暴力が発生している 図表2、5、9	虐待・暴力について理解を深めてもらうとともに、通報した人に対しての配慮があることを知ってもらう必要がある  オレンジリボン・パープルリボン 普及啓発プログラム 暴力・虐待の実態 普及啓発プログラム
虐待を受けたと思われる乳幼児や高齢者を発見した場合でも、相談・通報しない人が増えている 図表10	

課題に対するレベル別の対策

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
①子どもや高齢者、女性に対する虐待が発生している ②虐待を受けたと思われる乳幼児や高齢者を発見した場合でも、相談・通報しない人が多い	啓発支援	・オレンジリボン運動 ・パープルリボン運動 ・児童虐待防止推進月間 ・児童福祉法 ・女性支援新法	・女性相談員による相談支援 ・家庭・児童相談員による相談支援 ・地域包括支援センターによる相談支援 ・DV防止パンフレット・リーフレットの配布 ・SOSの出し方教育 ・子どもの貧困対策 ・子どもの見守り支援事業	・イベントにてオレンジリボン・パープルリボンの啓発 ・部会でチラシの作成、配布
	規則罰則	・児童虐待防止法 ・高齢者虐待防止法 ・障害者虐待防止法 ・配偶者暴力防止法		
	環境整備	・集団指導、施設指導監査 ・児童相談所 ・女性相談所 ・警察による相談対応	・十和田市要保護児童対策協議会 ・権利擁護支援事業 ・民生・児童委員による見守り ・避難先の確保 ・DV等支援措置	

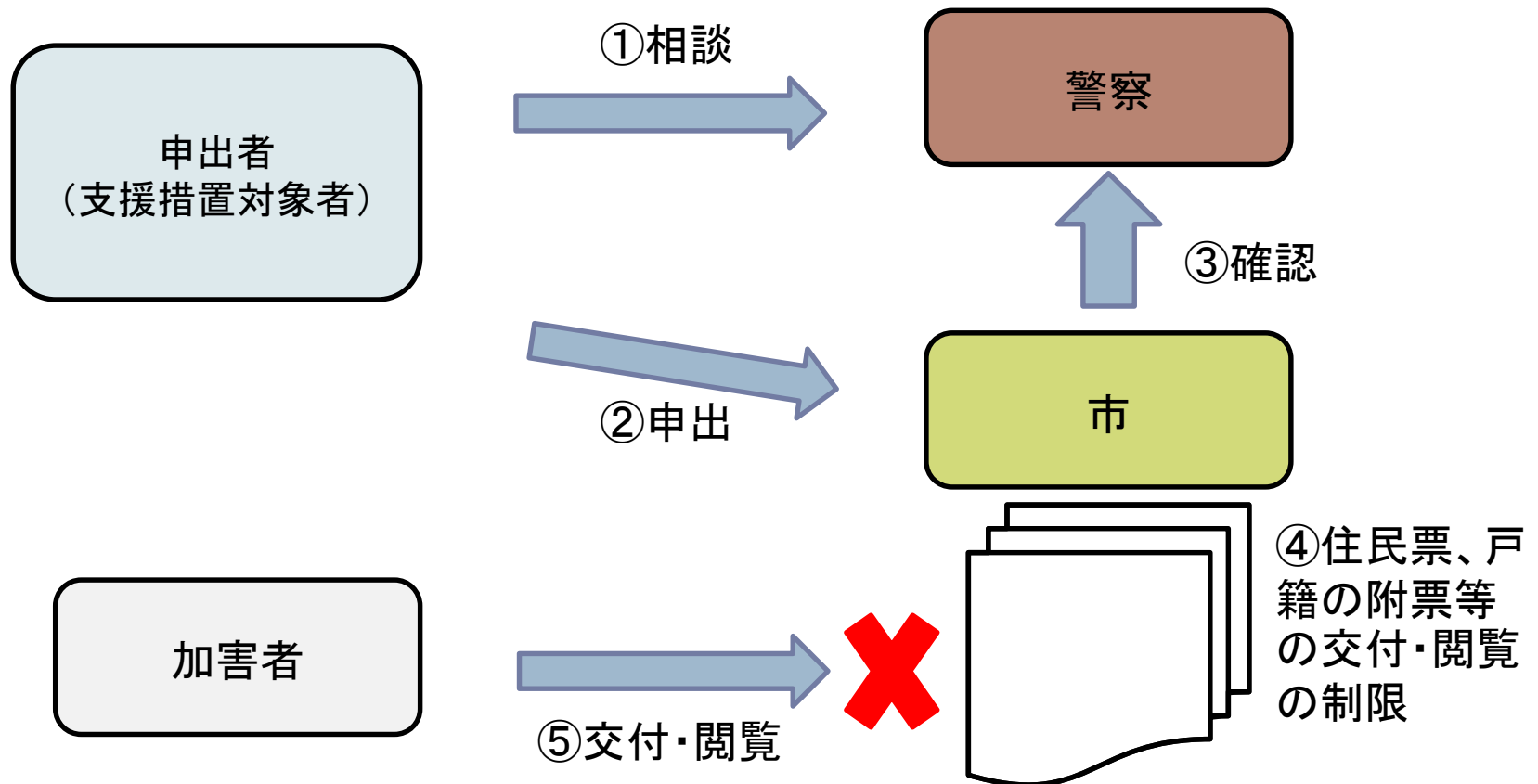
対策部会の関わり

- ・オレンジリボン・パープルリボンの作成・配布
(オレンジリボン・パープルリボン普及啓発プログラム)
- ・暴力虐待の事例発表とパネル展示
(暴力虐待の実態普及啓発プログラム)

課題に対するレベル別の対策

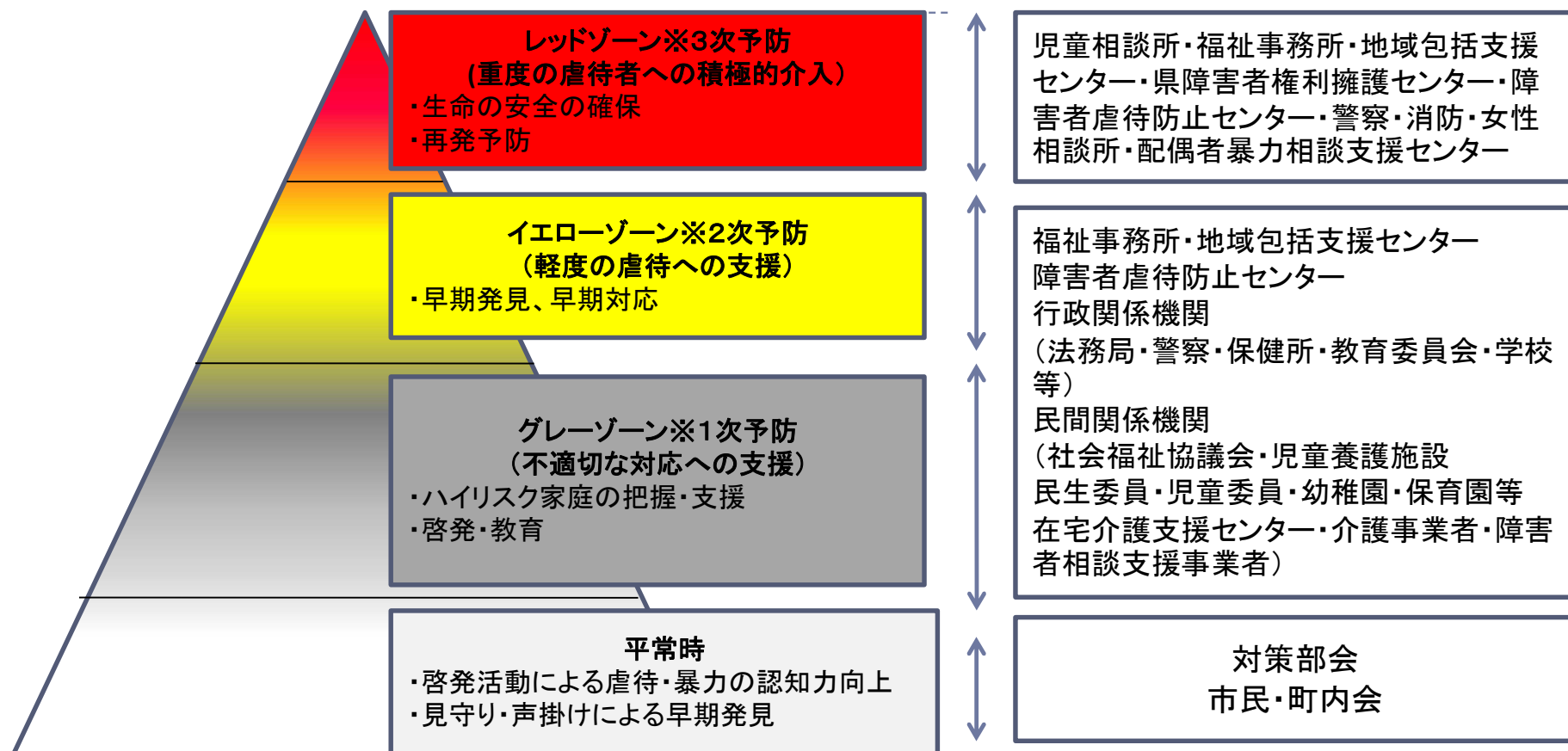
■市レベルの環境整備の対策事例

DV等支援措置



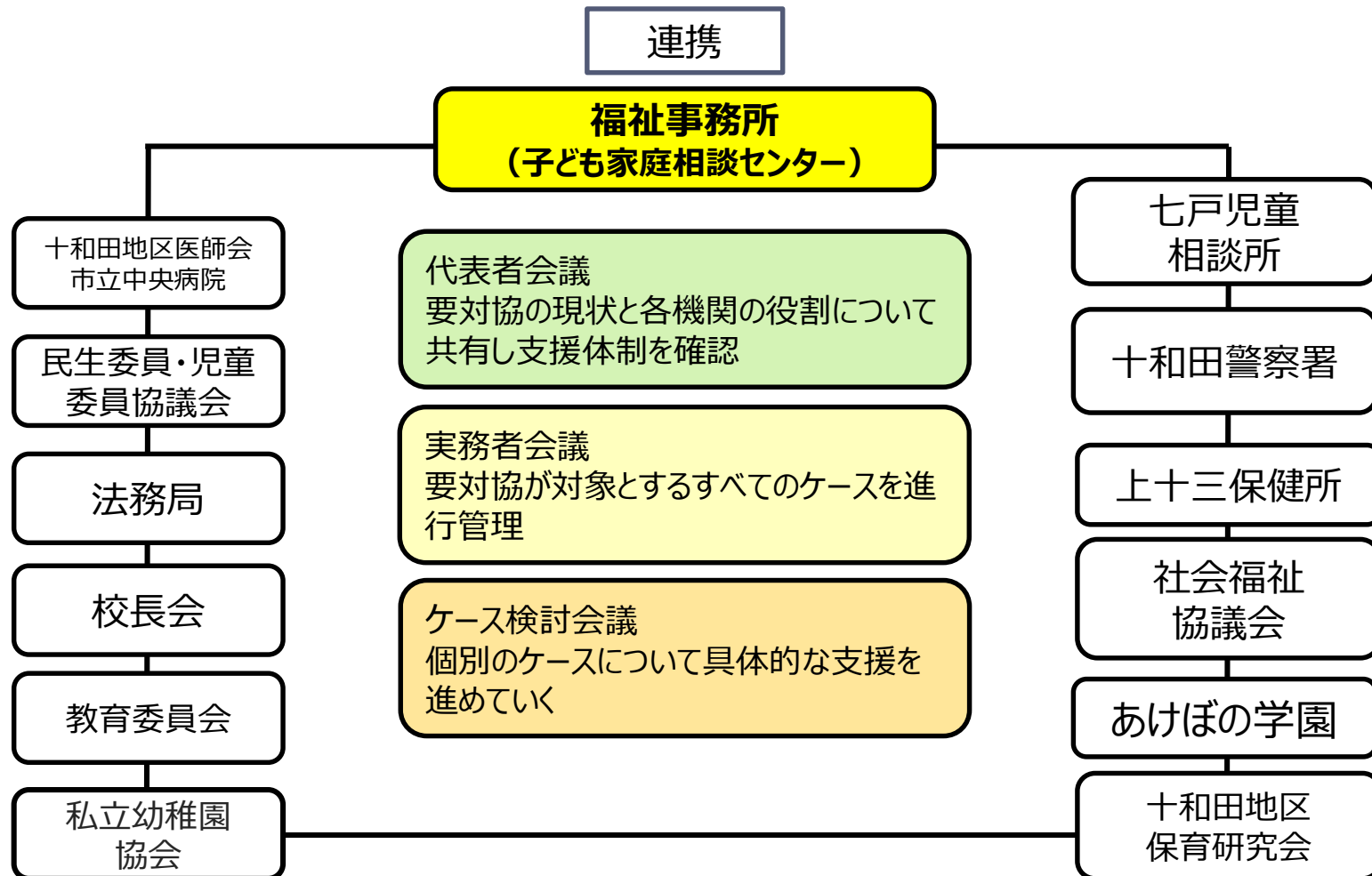
暴力・虐待予防の既存の取り組み①

■児童・障がい者・DV・高齢者に対する取組体制図



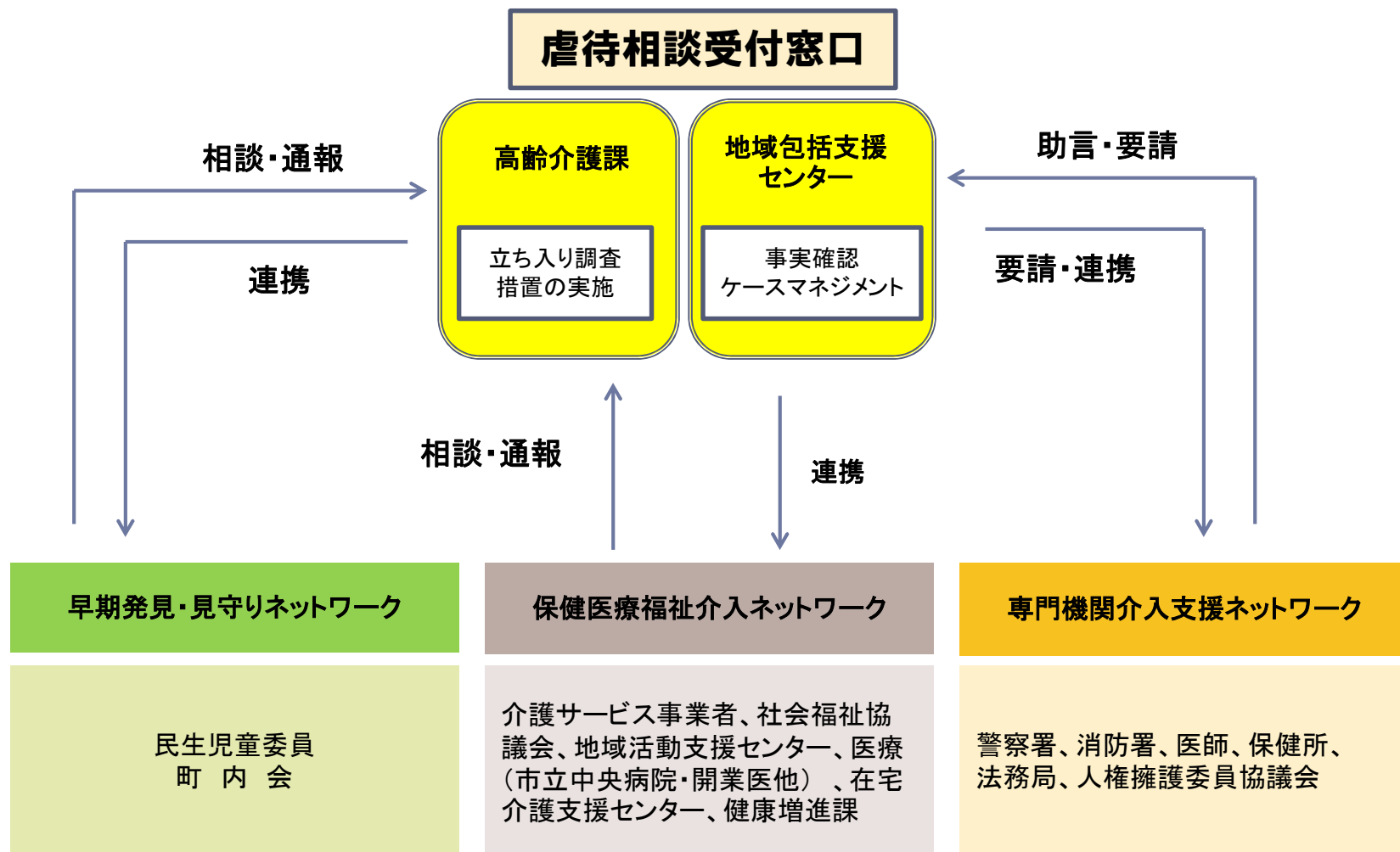
暴力・虐待予防の既存の取り組み②

■児童虐待防止のための連携協力体制 十和田市要保護児童対策協議会



暴力・虐待予防の既存の取り組み③

■高齢者虐待防止のための連携協力体制



オレンジリボン・パープルリボン 普及啓発プログラム

課題	子どもや高齢者、女性に対する虐待・暴力が発生している	
目標	虐待・暴力に関する相談先や通告義務の周知を図る	
内容等	オレンジリボン・パープルリボンについてのチラシ配布を行い、普及啓発をすることで、市民が虐待・DVに対しての理解を深める	
	【財源】	市民団体、十和田市
	【対象】	全市民
	【活動】	オレンジリボンの配布、パープルリボンの作成、配布、虐待防止チラシ作成
	【人材】	十和田警察署、十和田地区保育研究会、NPO法人スマイルラボ、十和田地区人権擁護委員会、市役所、教育委員会
(短期) 認識や知識の 変化	【指標】 オレンジリボン、パープルリボンの意味を知っている人の割合	【測定】 市民アンケート
(中期) 態度や行動の 変化	【指標】 虐待を受けたと思われる乳幼児や高齢者を発見した場合、相談または通報する人の割合	【測定】 市民アンケート
(長期) 状態や状況の 変化	【指標】 相談を利用した人の人数	【測定】 相談件数

プログラムの活動内容①

■オレンジリボン・パープルリボンのチラシ作成

部会員で協議し、イベント等で配布するチラシを作成。表面には市役所・警察の相談連絡先、裏面には虐待チェックシートを記載している

チラシ配布の様子



図表11 啓発チラシ配布枚数

年度	配布枚数
2020年	250枚
2021年	1,300枚
2022年	2,100枚
2023年	300枚

プログラムの活動内容②-1

■オレンジリボン・パープルリボンの啓発

市内保育施設(30施設)に対し、オレンジリボン・パープルリボンの塗り絵を配布した

図表12 配布した塗り絵(2022年(左)、2023年(右))



	2022年	2023年
配付枚数	2,000枚	2,000枚

プログラムの活動内容②-2

■オレンジリボン・パープルリボンの啓発

出来上がった塗り絵は、施設内で展示され、保護者の方々への啓発へと繋がられた

塗り絵の様子(左)と展示の様子(右)



プログラムの活動内容③

■オレンジリボン・パープルリボンの啓発

市役所1階のモニターで、11月の暴力虐待防止推進月間にあわせて放映した

放映画像



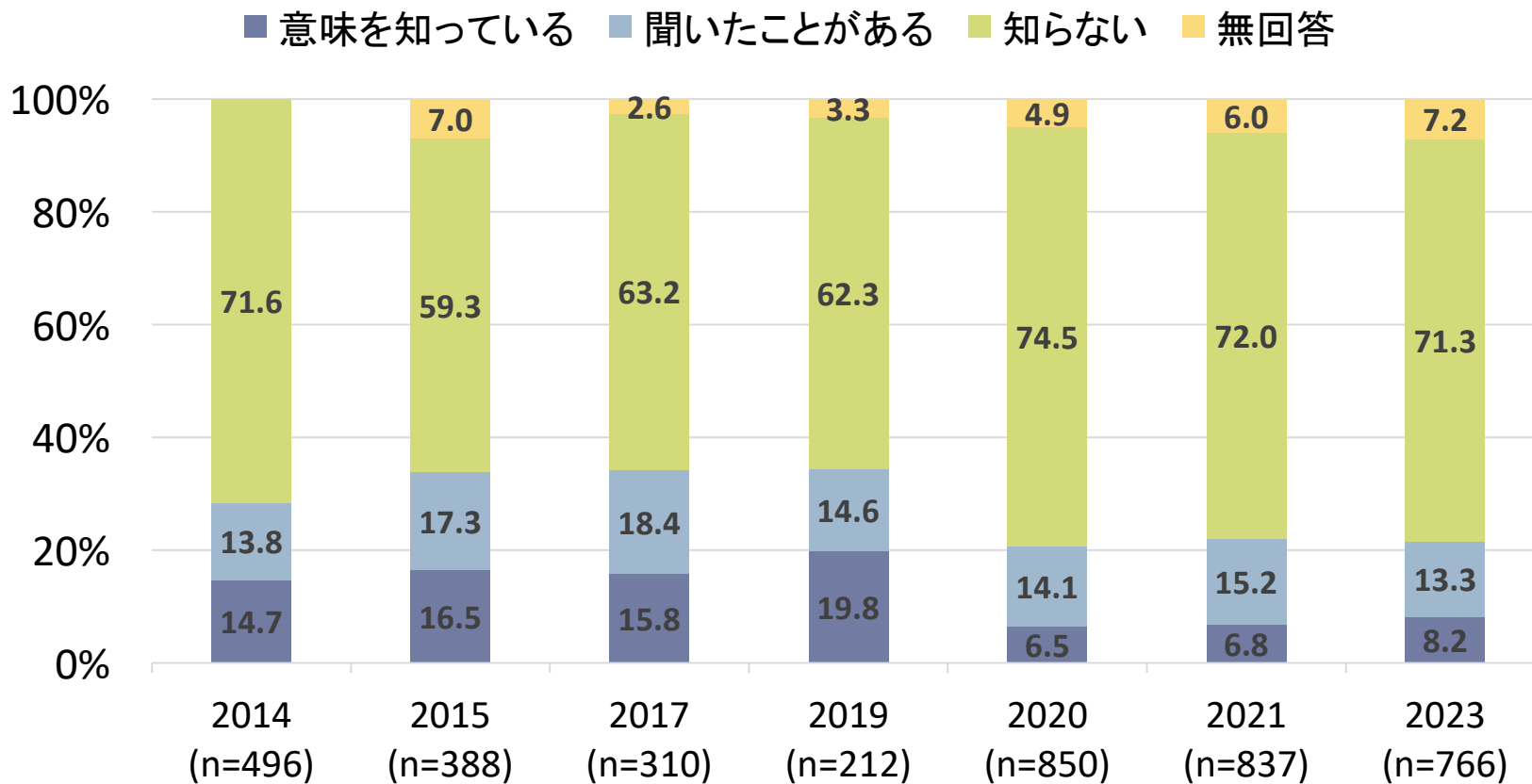
市役所のモニター



プログラムの活動評価①

■ オレンジリボンを知っている人の割合（短期）

図表13 オレンジリボンを知っている人の割合

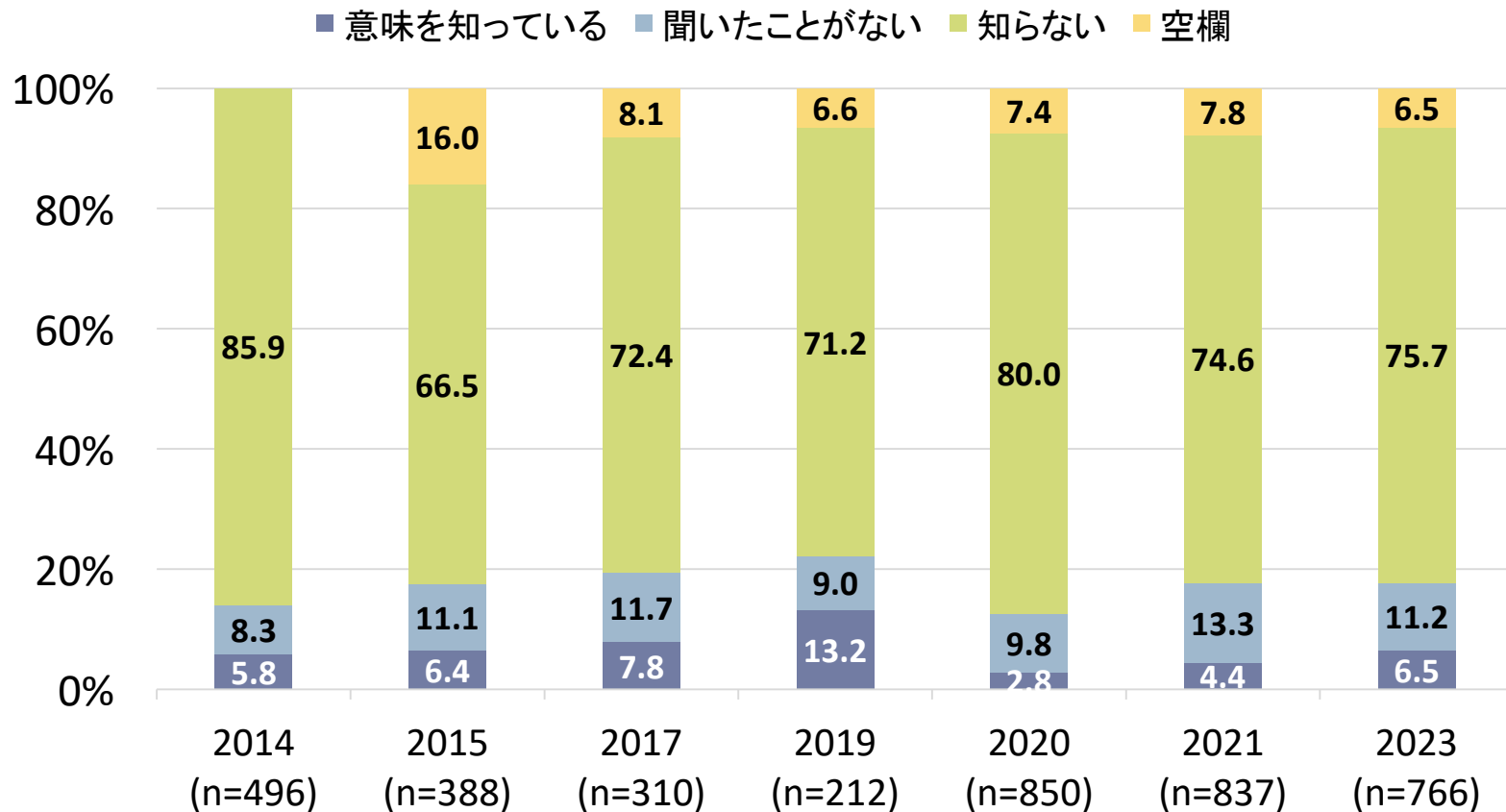


出典：十和田市安全・安心なまちづくりに関するアンケート（～2019年）、セーフコミュニティ市民アンケート（2020年～）

プログラムの活動評価②

■パープルリボンを知っている人の割合（短期）

図表14 パープルリボンを知っている人の割合

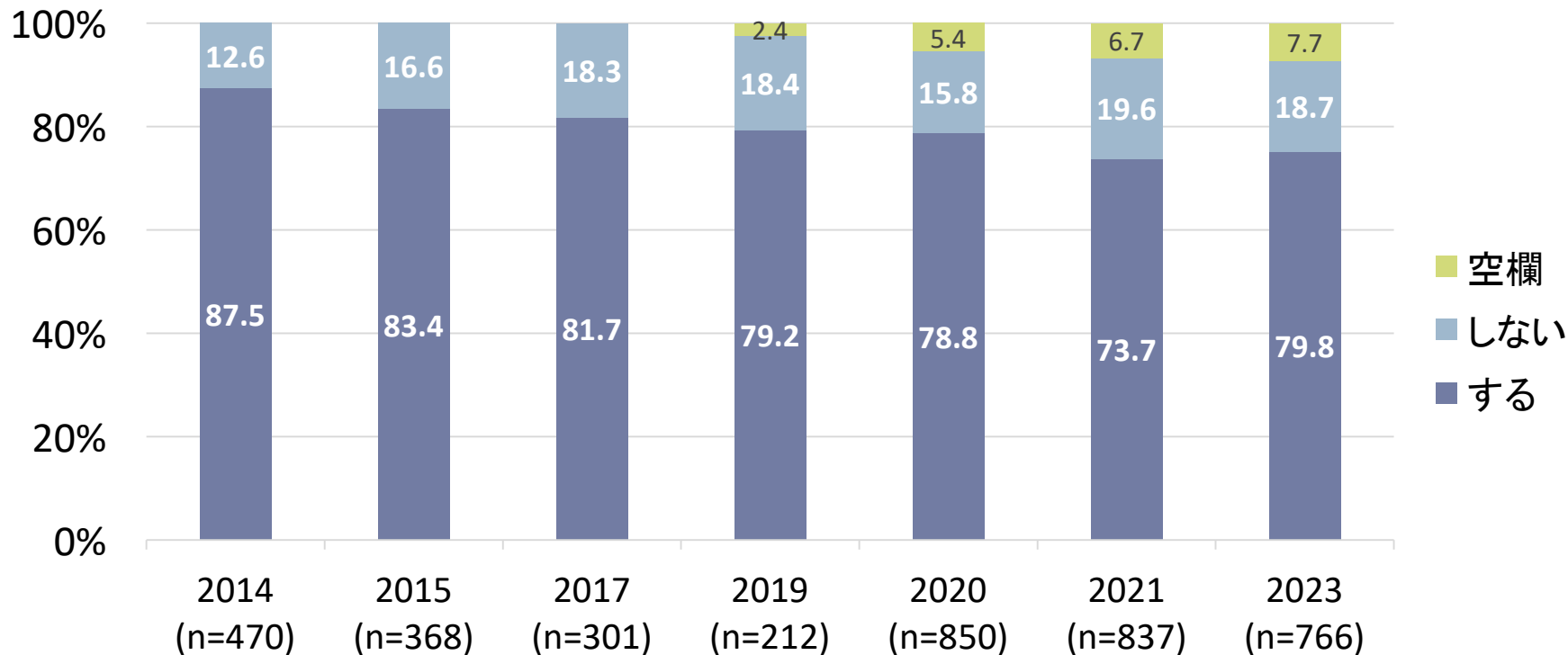


出典：十和田市安全・安心なまちづくりに関するアンケート（～2019年）、セーフコミュニティ市民アンケート（2020年～）

プログラムの活動評価③

■虐待を受けたと思われる乳幼児や高齢者を発見した場合、相談または通報する人の割合（中期）

図表10 虐待を受けたと思われる乳幼児や高齢者を発見した場合、相談または通報する人の割合

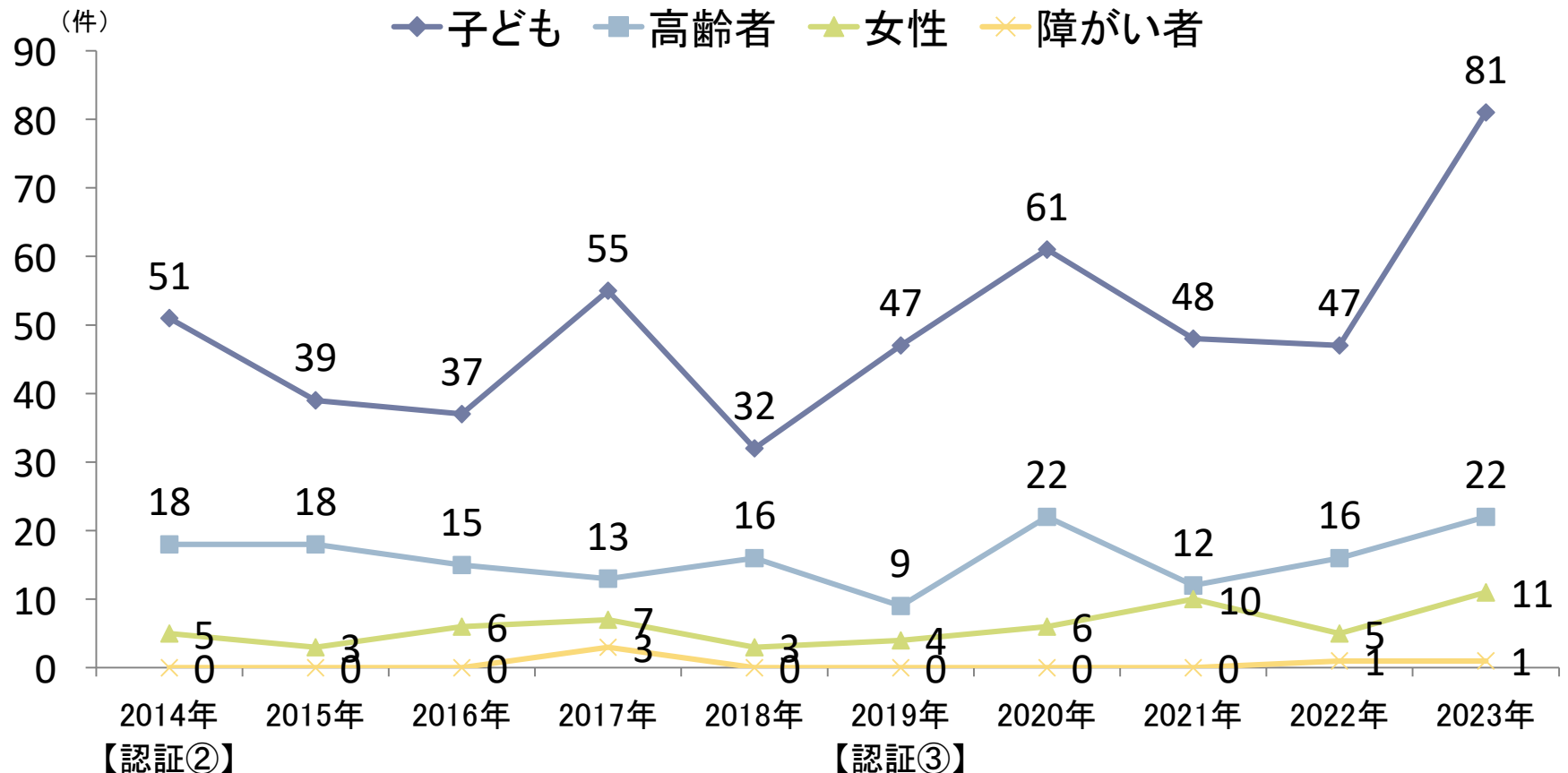


出典：十和田市安全・安心なまちづくりに関するアンケート（～2019年）、セーフコミュニティ市民アンケート（2020年～）

プログラムの活動評価④

■相談件数（長期）

図表15 虐待の相談件数



出典：こども家庭センター、高齢介護課、七戸児童相談所（2014年～2023年）

暴力虐待の実態普及啓発プログラム

課題	虐待を受けたと思われる乳幼児や高齢者を発見した場合でも、相談・通報をしない人が多い	
目標	暴力や虐待が疑われる場合、通報・相談してくれる人を増やす	
内容等	さまざまな場所で部会員による事例発表やパネル展示を行うことで、市民のDVIに対するの理解を深め、通報するよう意識作りをする	
	【財源】	市民団体、十和田市
	【対象】	全市民
	【活動】	専門講座や暴力・虐待予防に関連するイベント等での事例発表や啓発活動、パネル展示による啓発活動
	【人材】	十和田警察署、十和田地区保育研究会、NPO法人スマイルラボ、市役所、教育委員会、人権擁護委員
(短期) 認識や知識の変化	【指標】 虐待の通報は、虐待の疑いがあると思う場合でも受け付けられることを知っている人の割合	【測定】 市民アンケート
	【指標】 虐待の通報は、通報者が特定されないように配慮されていることを知っている人の割合	【測定】 市民アンケート
(中期) 態度や行動の変化	【指標】 虐待を受けたと思われる乳幼児や高齢者を発見した場合、相談または通報する人の割合	【測定】 市民アンケート
(長期) 状態や状況の変化	【指標】 事例発表の開催回数やパネル展示啓発活動の開催日数	【測定】 事例発表開催回数 パネル展示開催日数

プログラムの活動内容

■パネル展示

市民交流プラザやコミュニティセンターなど、市民の目に触れる場所での展示を行った



市民交流プラザ



南コミュニティセンター

図表16 事例発表の開催回数・パネル展示開催日数（長期）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
事例発表の開催回数	0回	1回	0回	0回	0回	0回
パネル展示開催日数	5日	10日	8日	0日	180日	1日

プログラムの活動評価

■短期目標についての評価

図表17 アンケート結果

調査年	2015年 (n=388)	2017年 (n=310)	2019年 (n=212)	2021年 (n=837)	2023年 (n=766)
①虐待の通報は、虐待の疑いがあると思う場合でも受け付けられることを知っている割合	59.0%	66.5%	71.7%	58.5%	67.1%
②虐待の通報は、通報者が特定されないように配慮されていることを知っている人の割合	42.0%	49.7%	50.5%	35.5%	42.8%

出典：十和田市安全・安心なまちづくりに関するアンケート（～2019年）、セーフコミュニティ市民アンケート（2021年～）

課題

- 被虐待者を発見した場合、相談・通報する人の割合が減少している
- 通報した人にも配慮があるということを知らない人がまだ多い

今後の計画

2024年

2025年

2026年

2027年

2028年

①オレンジリボン・パープルリボン普及啓発プログラム 【継続】・啓発チラシの配布

②暴力虐待の実態普及啓発プログラム

【継続】・事例発表
・パネル展示



ご清聴ありがとうございました

今日も無事でいてほしい



十和田市セーフコミュニティ推進マーク
「十」 十和田市の安全な街並み、
「和」 美しい郷土・十和田湖と紅葉、
「田」 人々の協働・交流・絆を表現